



うぐいす

TAKE FREE
ご自由にお持ちください

新任のご挨拶 千厩病院 院長 下沖 収

4月に千厩病院の病院長として着任しました下沖 収です。どうぞよろしくお願い致します。

前任地の県立久慈病院では消化器外科、乳腺外科、抗がん剤治療、緩和医療などのがん診療の他、感染症関連の診療も行ってきました。県南では、県立住田病院に2年、陸前高田市広田診療所に3年間勤務したことがありますが、この地域には初めての赴任です。

千厩病院は東磐井地域の中核的病院として、二次救急、透析医療、地域プライマリケアを担ってきた病院です。良質で安全な医療を提供するための活動、チーム医療の醸成を行って来ました。2011年の震災時には、いち早く大東病院や沿岸被災地病院から多くの患者を引き受け、病院をあげての被災病院支援は、全国的にも大きな評価を受けました。このような継続的な取り組みが評価され、2014年度には病院機能評価機構による認定(3度目更新)を受け、岩手県医療貢献賞も受賞しました。このような千厩病院ですが、医師不足は深刻であり、平成13年に18名いた常勤医が平成21年度から7名に減少、医師確保のための強力な働きかけにも関わらず、今年度も常勤医7名でのスタートとなりました。さらに、県立中央病院、磐井病院の医師減少のあおりで、応援医師も減少し、ギリギリの状態での診療が続いております。しかし、県内外から多くの非常勤の先生方にいらしていただき、その熱意により、外来診療、入院診療とも大きく縮小することなく継続しております。外来診療は、総合診療科、消化器内科、整形外科、外科、泌尿器科の他に、曜日限定ではありますが循環器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、脳外科、婦人科、呼吸器内科、漢方外来診療を行っております。さらに当院は、若手医師の教育機関としての役割も果たしております。県内外から初期研修医の地域医療実習の受け入れ、日本プライマリケア連合学会認定施設として、後期研修医も受け入れております。病院のみならず、地域の皆様にも暖かく育てていただけるようご協力をお願いいたします。

国の施策でもある、「病院機能分化」、「病院から地域・在宅へ」を受け、当院では大東病院から移管する形で回復期リハビリ病棟を2013年度に開設しました。脳血管疾患や整形外科疾患などの急性期治療を終えた患者さんたちに、在宅復帰を目指して密度の高いリハビリテーションを提供するためのものです。2014年度は1月以降の病床利用率が75%を越えております。リハビリテーションスタッフ、看護スタッフも少ない人数ではありますが、1人でも多くの患者さんが在宅復帰できるよう、チームをあげて努力を続けて参ります。

地域の多くのボランティアの方々が、この千厩病院を支え、応援して下さいていることは県内外に知れ渡っております。この場をお借りして、改めて深く御礼を申し上げます。医師不足、スタッフ不足による忙しい業務の中でも、地域の皆様の「ありがとう」と「支えたい」というお気持ちをいただけることで、全職員が大きな勇気を頂いております。これからも懇談会、出前講演や地域行事への参加などを通じて、これまで以上に地域の皆様との対話を行っていきたくと考えております。どうか変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

最後に繰り返しになりますが、千厩病院は地域に根ざした病院です。地域の皆様とともにある病院です。「すべての人びとに安らぎと希望を」の理念のもと、全職員がこの地域の医療を守るため、より良い病院を目指して日夜努力を続けて参ります。地域の皆様にも、ぜひとも「我らが病院」とお考えいただき、一緒に守り、育てていただくことをお願い申し上げます。よろしくお願い致します。

本誌の内容

- 1P 下沖収院長 新任の挨拶
- 2P 3P トピックス(平成26年度第2回地域医療懇談会)
- 4P トピックス(ボランティア合同懇談会) 新ドクター紹介、出前講演を実施します
- 5P お知らせ(摂食嚥下外来開設しました) お願い(敷地内全面禁煙・面会について)
- 6P 決定!平成26年度所属長表彰

平成26年度 第2回 地域医療懇談会



2月4日（水）に一関市役所千厩支所2階大会議室において平成26年度第2回千厩病院地域医療懇談会を開催し、39名の方々にご出席いただきました。

今回の懇談会はテーマを「生活習慣病対策 特に脳卒中対策」とし、佐藤一関保健所長から「両磐地域の実情と対策」、千厩支所 大内主任保健師から「千厩地域の高血圧対策の取り組み」、吉田院長から「脳卒中総論」、千厩病院各部署の職員から塩分摂取量検査の話しや脳卒中リハビリについてなどのお話しの後、初めての試みとしてグループディスカッション形式での懇談となりました。



懇談後には各グループから脳卒中予防対策を今後どのようにしていけばよいか、実情⇒取り組み⇒改善策という流れでご意見等をいただきましたが、「岩手県の脳卒中死亡率がワースト1であることに驚いた」、「グループディスカッションでは、他の参加者の体験談が聞けて良かった」などの意見もあり、情報発信についても積極的に行っていく必要性も感じたところですし、今後、千厩病院が生活習慣病対策にどのように関わることが良いのかを考えるいい機会にもなりました。



懇談会のなかで病院に対する質問等もあり、患者さんやご家族の方々も同様の疑問等をもっているのではないかと思いますので、ご回答致します。

講演会開催（糖尿病教室、生活習慣病教室）、友の会発足（高血圧友の会等）等

千厩病院では、地域の皆様方に医療・健康についての知識や意識を高めるための「出前講演」を随時行っております。生活習慣病や食事についての内容もご用意しておりますので、地域の皆さんで是非ご利用下さい。詳しい内容、申込み方法は千厩病院ホームページをご覧ください。事務局までお尋ね下さい。また、今年度から院内に「生活習慣病予防対策支援室」を立ち上げました。医師、看護師、薬剤師、栄養士などの専門職からなるチームです。患者さん・ご家族に対しての啓発活動を通じて、生活習慣病の予防と治療をサポートします。また、患者会の立ち上げなどに関しても積極的なサポートを行います。

千厩病院はどうして基幹病院になれないか（磐井病院だけというのは不公平）

医療・社会保障費の増大が懸念される中、効率的な医療提供のための機能分化が求められています。加えて、岩手県は都道府県40位の医師不足県ですので、高度医療を提供するためには、基幹病院に医師を集中させる必要もあります。一関地域においては、県立磐井病院が基幹病院にあたります。千厩病院は旧東磐井地域の第一線病院として、初期救急医療を担いつつ、基幹病院からの受け皿（後方病院）、さらには在宅復帰のためのリハビリ医療を提供する役割を担っています。

**このまま夜間の受入れを継続してほしい。千厩病院をなくさないでほしい。
当直医の振り分け分により、診察を受けるまでに時間がかかることがある。
門前払いにしないでほしい**

これまで千厩病院は旧東磐井地区の初期救急医療を担ってきました。2014 度は 953 台の救急車を受け入れております。一関地区においては、磐井病院に次ぐ実績です。しかし千厩病院の常勤医は現在 7 名であり、この人数では夜間休日の救急医療を継続するのは不可能です。現在、県内外から多くの先生がたに応援に来ていただくことで救急医療を維持しているのが現状です。可能な限り幅広い患者さんに対応するよう努力しておりますが、専門的な医療を必要とする場合には、基幹病院や専門医療機関、大学病院などへ搬送もしくは受診をお願いすることもあります。あるいは一刻も早い治療や集中治療が必要な場合も千厩病院での対応が難しい場合があります。地域の皆様には、ご理解をお願いいたします。

脳梗塞の症状が出た場合、直接基幹病院へ行ける仕組み

脳梗塞は、発症から 3 時間以内であれば線溶療法（血栓を溶かし血流を回復させる）という特殊な治療法が行え、後遺症を軽くできる可能性があります。病院での検査の時間を考えると 2 時間以内に治療可能な病院に到着する必要があります。脳梗塞を高い確率で見分ける症状は、顔がゆがむ、手が挙がらない、言葉がもつれるなどです。このような症状がある場合には、ただちに救急車に連絡してください。救急隊は治療可能な病院へ直接搬送してくれます。“脳卒中『顔・腕・言葉』ですぐ受診”と覚えておきましょう。また、怪しい症状で迷う場合には千厩病院の救急室にご連絡いただければ、適切な対応をアドバイスいたします。

一度脳卒中になったことがあるのだが、再度ならないためにどうしたらいいのか？ 脳卒中は家系で決まるのか？

再発予防のためには、原因となった病気（高血圧、糖尿病、脂質異常症など）の治療や生活習慣の改善が重要です。薬物療法や手術療法などが必要な場合もあります。担当医とよく相談し、必要な治療を継続することが重要です。加えて、悪い生活習慣の改善も重要です。病院では、生活習慣についての知識や意識を高めるために「生活習慣病予防対策支援室」を中心に啓発活動を行っております。詳しくは、外来看護師にお尋ね下さい。

脳卒中自体は遺伝で起こる病気ではありませんが、原因となる高血圧、糖尿病、脂質異常症などの危険因子は遺伝と生活習慣の療法が関係しています。脳卒中の多い家系の方は、危険因子の把握と治療、悪い生活習慣の改善を行うことで、脳卒中の発症リスク下げることができます。

塩分摂取量の検査はどこにどういったら受けられるか？

千厩病院で実施できます。ただし保険診療は、高血圧症や糖尿病などを持っている再来の患者さんが対象となり、医師が診療上尿検査を必要と認めた場合に実施します。また、新患の患者さんは高血圧症や糖尿病などの病名が確定し、医師が診療上尿検査を必要と認めた場合に実施します。

※健康な方が、尿検査のみ実施する場合は健康診断で受けることができます。

ただし、健康診断は保険適用とならないため全額自己負担（5、390 円）となります。

27年度の地域医療懇談会も開催を予定しておりますので、是非皆さんご参加ください。



ボランティア合同懇談会

平成27年3月27日（金）12時より大会議室において、当院ボランティア団体の皆さんの平成26年度千鶴賞の表彰式と合同懇談会が開催されました。

吉田院長より、当院ボランティア団体（福祉ボランティア・朝顔のたね・花めぐり勝手に応援する会・清田13区・退職者の会・生け花ボランティア）の皆さんへ日頃の活動に対し謝辞が述べられ、記念品が授与されました。その後、次年度の活動計画等が各ボランティアの代表者より報告がありました。昼食を取りながら、情報交換など有意義な懇談会となりました。また、26年度で人事異動となりました、吉田徹院長と高橋浩事務局長に花束や記念品等が贈られました。



★ 新ドクター紹介



下沖 収

院長
兼地域医療連携室長
兼栄養管理室長
外科・総合診療科
県立久慈病院より着任



寺裏 寛之

総合診療科長
県立宮古病院より着任

どうぞ宜しくお願いいたします。

～出前講演を実施しています～

当院では、平成19年8月から地域の皆様方との関わりを大切にするため、医療のことや健康のことの知識や意識を高めていただくよう、職員を講師として派遣しています。

27年度の出前講演のメニューが決まりました。対象地域は旧東磐井地域（千厩、大東、藤沢、東山、室根、川崎）に出向きます。申込条件は地域の行政団体（自治会、婦人会など）で参加人数15名以上で申し込みをお願いします。また、1回の講演で2題以内など、詳しいことは随時承っております。お問い合わせをお待ちしております。

出前講演等のお問い合わせ

ホームページまたは電話53-2101(代)
医事経営課まで

千厩病院ホームページアドレス

<http://www.senmaya-hospital.jp>

検索

カチ

番号	演題名	備考
1	足音のない合併症 ～くつの選び方、安全な爪の切り方～	看護
2	安心して自宅で過ごせるようにしましょう 《内容》高齢化率と現状、退院支援について(社会資源の活用・制度・相談機能等)、地域の看護師との連携	看護
3	突然、具合が悪くなった時の病院のかかりかた	看護
4	インフルエンザ・ノロウイルスのときはどうすればいいの？ ～流行への対策と予防～	看護
5	楽しく食べて笑顔で元気に	看護
6	正しいくすりの使い方	薬剤
7	ジェネリック医薬品(後発医薬品)について	薬剤
8	体の中がわかるレントゲン検査について	放射線
9	血液や心電図などの検査で何が分かるの？	検査
10	うち お家は危険がいっぱい 転倒予防チェック	リハビリ
11	イキイキ動くための体づくり	リハビリ
12	おいしく食べて元気になろう ～飲みこみやすい食事の工夫～	栄養
13	生活習慣病どうまくつきあう食事のコツ ～ココをおさえれば何でも健康食～	栄養
14	緩和ケアについて (がんなどによる痛み(苦しみ)をおさえる医療)	外科
15	がん一般について	外科
16	胃がんについて	外科
17	大腸がんについて	外科
18	乳がんについて	外科
19	病院で支払う会計のしくみについて	事務

摂食嚥下(飲み込み)外来



摂食嚥下（飲み込み）外来を平成 27 年 2 月に開設致しました。
 加齢と共に食べ物や水分を飲み込む運動機能が低下し、誤嚥性（ゴエンヤイ）肺炎を起こしやすいと言われていています。誤嚥性肺炎とは、食べ物等が誤って気管内に入ったものを自力で咳き込んで吐き出すことが出来ないなど、免疫力が低下していると起こしやすい肺炎の一つです。脳血管疾患や呼吸器疾患など様々な疾病や認知症が加わるとその危険性はさらに高くなり、致命的となる場合もあります。

平成 26 年度の当院入院患者さんのうち肺炎で入院した患者さんは 10.6%、そのうちの 93.4%が 70 歳以上の高齢者でした。死亡患者さんのうち死因が肺炎であったのは 23.1%でした。日頃から食べる姿勢や食事の形態、安全に食べる工夫、おいしく食べるためのお口のケアをすることで誤嚥性肺炎の予防につながります。おいしく食べるためには、お口の健康もとても重要となります。

摂食嚥下（飲み込み）外来では、指定の研修を受けた摂食・嚥下障害看護認定看護師が飲み込み方を見て、安全に食べる工夫の説明とお口のトラブルの相談を行います。「前よりむせやすくなったなあ」「食べ物が喉につっかかる感じがするなあ」「食べるのが大変に感じることもあるなあ」と、以前より食べにくさを感じたら早めにご相談下さい。食べる時の姿勢や食事形態の工夫、食べる時に使う筋肉の軽い運動等を行うことで、食べにくさを解消できることがあります。その他にも、「お口の汚れがなかなか取れなくて困っている」「乾燥しやすいけどどうしたらいいのだろう」等、お口の悩みもご相談下さい。

「口から食べて、いつまでも笑顔で元気に！」をモットーに、日々患者さんやそのご家族の皆さんの希望に沿えるよう援助・相談を行っています。トラブルを早く発見し、食べることを楽しみに、笑顔でいつまでも健康でいられるようにお手伝いさせていただきます。

- ＊ 場 所：2階 婦人科外来
- ＊ 日 時：毎週木曜日 9：00～11：30
- ＊ 対象の方：①肺炎を繰り返している
 ②食事や水分でムセる、飲み込みにくさを感じる、食べにくい食品がある等の症状
 ③口腔内乾燥、口臭、舌苔、出血しやすい等の口腔トラブルがある
- ＊ 内 容：飲み込みの相談
 - ★姿勢、食事形態、食事方法
 - ★口の中のトラブル悩み相談
 - ★口腔ケア（口の清掃）の実施と方法
- ＊ 担 当：摂食・嚥下障害看護認定看護師 大下 恵



＊ お問い合わせ：外来診察時に医師又は各外来看護師へお話しください

患者さんの面会について



ご不明な点は病院職員へおたずね下さい。

お願い



病院敷地内は駐車場を含め、
 全面禁煙となっております。
 ご協力をお願いします。

決定!

26年度 所属長表彰

平成26年度は次のとおり4部門(団体)が所属長表彰を受けました。



この表彰は、業務改善等により優秀な成果・業績をあげた各病院職員等をそれぞれの病院長が表彰し、職員の意欲・満足度の向上に資することを目的として平成17年度から「医療局所属長職員表彰実施要領」で制定されたものです。

1. リハビリテーション科 (代表 佐々木和也 リハビリテーション技師長)
回復期リハビリテーションの365日実施体制構築等の改善に取り組み、リハビリテーションの効率化と質向上を図るとともに、収益増に貢献しました。
2. 救急診療委員会 (代表 佐藤 一 副院長)
看護師長会 (代表 小田島 淳子 総看護師長)
施設見学や医療職体験を企画し中学生及び高校生197名を受入れ、病院と医療職全体に対する理解を深め医療人確保活動に貢献しました。
3. 主任看護師 (摂食嚥下障害看護認定看護師) 大下 恵
摂食嚥下障害看護認定看護師として、院内はもとより、他の県立病院、地域、福祉施設における摂食嚥下機能障害の改善活動が顕著であり、併せて看護師確保及び収入確保に貢献しました。
4. 主任看護師 (感染管理認定看護師) 石川 泰洋
感染管理認定看護師として、院内はもとより、地域や行政機関と連携して感染予防の啓発活動を行い、その成果は顕著でありました。



表彰式では吉田院長から当該4部門(団体)の各代表に表彰状と金一封が授与され表彰の主旨の説明と感謝の意及び今後の業務への期待等の言葉が述べられました。その後被表彰者の代表として佐々木和也リハビリテーション技師長より謝辞と新たな決意が述べられました。

表彰を受けられた各部門等の皆さん、大変おめでとうございます。今後一層の飛躍・活躍をご期待いたします。

表彰式の様子



病院理念「すべての人びとに安らぎと希望を」



復興と再生へ
~Together As ONE~



再生への願い【若草リボン】

岩手県立千厩病院

〒029-0803

岩手県一関市千厩町千厩字草井沢32番地1

TEL 0191-53-2101

FAX 0191-52-3478

<http://www.senmya-hospital.jp> Email:EA1012@pref.iwate.jp

編集・発行 岩手県立千厩病院広報委員会